令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【高砂小・中・中等教育学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	(1) 自己の学びをメタ認知し、次の学習につなげていくことができる資質・能力 (2) 協働的な学びを通して、学びを深めていくことができる資質・能力
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	(1)児童が自らの学び・学び方について振り返る時間を設定し、次の学習に生かせるようにする。【各単元の中で1回以上】 また、児童の振り返りをもとに、児童にとって必要感のある課題や児童が主体的に課題に取り組む場を設定する【単元の中で数回】 (2) 風通しのよい集団づくりを土台とするとともに、活動の中にICTの効果的な活用を位置付け、協働的な学びを通して自己の考えを表現したり、深めたりすることができる場を設定する。【各単元の中で1回以上】

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	・すべての教科において全国・埼玉県の平均を大きく上回っており、基礎的・基本的な知識・技能の定着及び思考・判断・表現力の向上が図られていると言える。一方で、国語科では、「書くこと」領域が他領域に比べ低く、記述問題における表現の具体化に課題が見られる。算数では、「変化と関係」や「データの活用」の領域において正答率が下がる傾向にあった。 ・「自分から学び方を工夫する」、「学習の見直しと次への活用」に肯定的に回答する割合が高かった。 ・「自分と違う意見を考えるのが楽しい」、「意見が否定されない学級風土」に肯定的に回答する割合が高かった。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	・収集した情報から必要な条件を抜き出し、自らの考えの根拠として文脈に合わせて引用・再構成する力に課題が見られる。 ・自己の学びをメタ認知し、次の学習につなげていくことができる資質・能力が高まってきていると言える。 ・互いの考えを認め合う素地が着実に形成されている。

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価(※) B	学力向上策(1)(2)ともに実施することができている。(2)については、児童の実態を踏まえ、国語等の記述指導において、風通しのよい集団関係を生かし、グループ内で互いの文章を読み合い、「根拠のつなぎ方」や「表現の工夫」等、具体的なアドバイスを送り合いながら修正・練り上げる活動を行っていく。
⇓		
学力向上策の見直し	（変更なし）	

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）